第六講　古文常識「出家」（『大鏡』　花山院の出家）

〈読解練習〉

（花山天皇は）永観二年八月二十八日、位につかせ給ふ。御年十七。寛和（かんな）二年丙戌（ひのえいぬ）六月二十二日の夜、あさましく候ひしことは、人にも知らせさせ給はで、みそかに花山寺（くわさんじ）におはしまして、御出家（ごすけ）入道せさせ給へりしこそ。御年十九。世を保たせ給ふこと二年。その後二十二年おはしましき。

●あさまし

❶驚きあきれる
❷嘆かわしい・情けない
❸ひどい

●みそかなり【密かなり】

❶こっそり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「出家」＝世俗の生活を捨てて、仏門に入る（お坊さんになる、尼さんになる）こと。

●「出家する」の意味を表す語1～3

1…「世」（＝今、生活している「**俗世間**」）が嫌で、そこから逃げ出したいために「**出家する**」というところから、**世を㊀**＝「**出家する**」の意味になる語。

世（よ）**を**
- **いづ【出づ】**
- **いとふ【厭ふ】**
- **かる【離る】**（「はなる」とも）
- **すつ【捨つ】**
- **そむく【背く】**
- **のがる【遁る】**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2…出家をすると、服装や髪形などの見た目が変わる。**「見た目が変わる」**＝**「出家する」**の意味になる語。

さまをかふ【様を変ふ】
かたちをかふ【形を変ふ】
かしらおろす【頭下ろす】…「頭髪をそる＝剃髪する」という意味➡**「出家する」**
みぐしおろす【御髪下ろす】…「みぐし」は「髪の敬称」。同じく「剃髪する」➡**「出家する」**
やつす【窶す】…「みすぼらしく姿を変える」➡**「出家する」**という意味。ただし、そのまま**「みすぼらしく、目立たないように姿を変える」**という意味で使用する場合もあるので注意。

3…**「真の道＝仏道」**、**「発心＝仏教心を起こす」**を用いた語。

まことのみちにいる【真の道に入る】
ほっしんす【発心す】

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

あはれなることは、おりおはしましける夜は、（注）藤壺の上の御局の小戸（こど）より出でさせ給ひけるに、（注）有明の月のいみじく明かかりければ、「（注）顕証（けんしよう）にこそありけれ。いかがすべからむ。」と仰せられけるを、「さりとて、とまらせ給ふべきやう侍らず。（注）神璽（しんし）・宝剣（ほうけん）渡り給ひぬるには。」と、（注）粟田殿（あはたどの）の騒がし申し給ひけるは、まだ帝出でさせおはしまさざりけるさきに、手づから取りて、（注）春宮の御方に渡し奉り給ひてければ、帰り入らせ給はむことはあるまじく思して、しか申させ給ひけるとぞ。

（注）藤壺の上の御局…清涼殿〔＝天皇が昼間いる部屋〕の北側にある部屋。
有明の月…夜が明けようとする頃に、月がまだ空に残っている状態。また、その月。
顕証なり…はっきりしていること。あらわであること。
神璽・宝剣…皇位継承の印の「三種の神器」のうちの二つ。
粟田殿…藤原道兼。蔵人として、花山天皇に仕えていた。藤原兼家の三男。
春宮…ここでは円融天皇の第一皇子の懐仁（やすひと）親王のこと。藤原兼家の孫にあたる（母親が兼家の娘）。

★**「春宮」**（＝「　　　」）＝「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さやけき影を、まばゆく思し召しつるほどに、月の顔にむら雲のかかりて、少し暗がりゆきければ、「わが出家は成就するなりけり。」と仰せられて、歩み出でさせ給ふほどに、（注）弘徽殿（こきでん）の女御の御文の、日ごろ破（や）り残して御身も放たず御覧じけるを思し召し出でて、「しばし。」とて、取りに入りおはしましけるほどぞかし、粟田殿の、「いかにかくは思し召しならせおはしましぬるぞ。ただ今過ぎば、おのづから障りも出でまうで来（き）なむ」と、（注）そら泣きし給ひけるは。

（注）弘徽殿の女御…ここでは花山天皇が寵愛された藤原忯子（しし）のこと。この前年に懐妊中に亡くなった。
そら泣き…うそ泣き。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●かげ【影・景】

❶
❷

●まばゆし【眩し・目映ゆし】

❶まぶしい
❷光り輝くほど美しい
❸恥ずかしい
❹目をそむけたいほど程度がひどい

ひごろ【日頃】
●つぎごろ【月頃】
としごろ【年頃】
＝
日
ヶ月
年

●おのづから【自ら】

❶自然と
❷たまたま・偶然
❸ひょっとして

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さて、（注）土御門（つちみかど）より東（ひむがし）ざまに率て出だし参らせ給ふに、（注）晴明（せいめい）が家の前を渡らせ給へば、自ら（みづか）の声にて、手をおびたたしく（注）はたはたと打ちて、「帝おりさせ給ふと見ゆる天変ありつるが、すでになりにけりと見ゆるかな。参りて奏せむ。車に（注）装束（さうぞく）疾（と）うせよ。」と言ふ声聞かせ給ひけむ、さりともあはれには思し召しけむかし。「（注）かつがつ、（注）式神（しきがみ）一人内裏に参れ。」と申しければ、目には見えぬものの、戸を押し開けて、（注）御後ろをや見参らせけむ、「ただ今、これより過ぎさせおはしますめり。」といらへけりとかや。その家、（注）土御門町口（まちぐち）なれば、御道なりけり。

（注）土御門より東ざまに…土御門大路を通って東の方向へ。
晴明…安倍晴明。陰陽師。天文博士。
はたはたと…ぱちぱちと。
装束…ここでは「支度・準備」の意味。
かつがつ…とりあえず。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

式神…陰陽師が使う心霊。普通の人には見えないものとされている。
御後ろ…（花山天皇の）後ろ姿。
土御門町口…土御門通りと町口通りの交わる所。

●とし【疾し】

❶はやい

※「とく」（＝とう）の形でよく出てくる。

花山寺（くわさんじ）におはしまし着きて、御髪おろさせ給ひて後にぞ、粟田殿は、「まかり出でて、（注）大臣（おとど）にも、変はらぬ姿、いま一度見え、かくと案内（あない）申して、必ず参り侍らむ。」と申し給ひければ、「朕（われ）をば謀（はか）るなりけり。」とてこそ泣かせ給ひけれ。あはれに悲しきことなりな。日ごろ、「よく御弟子にて候はむ。」と契りて、すかし申し給ひけむがおそろしさよ。

（注）大臣…（粟田殿の）父である兼家を指す。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●あない【案内】
❶案の内容
❷物事の事情
❸取次ぎを頼むこと
❹事情を明らかにすること

（注）東三条殿（とうさんでうどの）は、「もしさることやし給ふ。」とあやふさに、（注）さるべくおとなしき人々、（注）なにがしかがしといふいみじき源氏の武者（むさ）たちをこそ、御送り（おんおく）りに添へられたりけれ。京のほどは隠れて、（注）堤（つつみ）のわたりよりぞうち出で参りける。寺などにては、「もし、（注）おして人などやなし奉る。」とて、一尺（ひとさく）ばかりの刀どもを抜きかけてぞ守り申しける。（『大鏡』）

（注）東三条殿…兼家のこと。
さるべく…このような場合にふさわしい。
なにがしかがし…誰それ。
堤のわたり…鴨川の堤のあたり。
おして人などやなし奉る…無理に誰かが道兼を出家させ申し上げるのではないか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●おとなし【　　　】

❶大人びている
❷思慮分別がある

★「出家」系の単語

●おこなふ【行ふ】

❶仏道修行をする・勤行する
＊ちなみに、出家してするのが「修行」。出家まではせず、普段、お経を読んだりするのが「勤行」。

関連　**おこなひ【行ひ】**　❶仏道修行

●ほだし【絆】

❶自由を束縛するもの
★「仏道の妨げとなるもの」＝親・妻子・恋人など

「ほだし」＝「絆」は「きずな」。今の生活や人間関係を捨てて「出家」をする時、「親・妻子・恋人などの人間関係の絆」が強ければ強いほど出家しにくいもの。「ほだし」は、そういう「仏道の妨げ」となるものを指すことが多い。
「ほだし」とは、もともと「馬の足にからませて馬の自由を奪う綱」のこと。そこから「自由を束縛するもの」の意味となり、特に「出家をする自由を奪うもの」＝**「親・妻子・恋人」**の意味でよく用いるようになる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　復習問題

①「障り」の読みとして最も適当なものを、次の中から選べ（表記は歴史的仮名遣い）。

ア　さかり　　イ　さはり　　ウ　つかはり　　エ　ふさがり　　オ　ふたがり

②「案内(あない)申して、必ず参り侍らむ」の傍線部の口語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　縁故を探して　　イ　事情を報告して
ウ　知り合いを連れて　　エ　道案内して

③「やがてさまかへ、小野といふ山里に籠りゐて、地蔵菩薩を本尊として、明け暮れ行ひ給へり。」の傍線部の内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　離縁すること　　イ　出家すること　　ウ　零落すること
エ　身を隠すこと　　オ　髪上げをすること

④「返りごとは、かしこなるおとなしき人して書かせてあり。」の傍線部とはどんな人か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　年配の女房　　イ　無口な女房
ウ　穏やかな性格の女房　　エ　新入りの女房

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講

〔現代語訳〕

（花山天皇は）永観二年八月二十八日、ご即位なさった。御年十七歳（の時でいらっしゃいました）。寛和二年丙戌六月二十二日の夜、驚きあきれましたことは、人にも知らせなさらないで、ひそかに花山寺においでになって、ご出家入道なさった（ことです）。（この時）御年十九歳。世を治めなさること二年。出家後は二十二年間ご存命でいらっしゃった。

しみじみと心が痛む思いがすることは、ご退位なされた夜、藤壺の上の御局の小戸からお出ましになられたところ、有明の月がたいそう明るかったので、（天皇が）「あまりにあらわ（では気が引けること）だなあ。どうしたらよかろうか。」とおっしゃったが、「そうかといって、とりやめなさる訳にはまいりますまい。神璽と宝剣が（既に東宮の御方に）お渡りになってしまったからには。」と、粟田殿がせき立てて申し上げなさったのは、まだ天皇がお出ましになられる前に、（粟田殿が）自ら（神璽と宝剣を）取って、東宮の御方にお渡し申し上げなさっていたので、（天皇が宮中へ）お帰りなさるような事はあってはならないとお思いになって、そのように申し上げなさったということだ。

明るい月の光を、気が引けるとお思いになっているうちに、月の表に群雲がかかって、わずかに暗くなっていったので、「私の出家は成就するのだなあ。」と（天皇が）おっしゃって、歩き出しなさると、（亡くなった）弘徽殿の女御のお手紙で、平素破り捨てずに残して御身から離さず御覧になっていたお手紙を思い出しなさって、「しばらく（待て）。」と言って、取りにお戻りになった時の事だよ、粟田殿が、「どうしてこのように（未練がましく）お考えになられるのか。今が過ぎたならば、自然と差し障りも出てまいりましょう」と、うそ泣きをなさったのは。

そうして、（粟田殿が天皇を）土御門大路を通って東の方向へお連れ出し申し上げなさった時に、安倍晴明の家の前をお通りになると、晴明自身の声で、手をしきりにぱちぱちとたたいて、「天皇がご退位なさると思われる天変があったが、既に（ご退位は）決まってしまったと思われるなあ。参内して奏上しよう。車の支度を早くしろ。」と言う（晴明の）声をお聞きになった天皇のお心は、お覚悟の上とは言え、しみじみとお思いになった事だろうよ。「とりあえず、式神一人宮中へ参上せよ。」と（晴明が）申し上げたところ、（人間の）目には見えない何者かが、戸を押し開けて、（花山天皇の）後ろ姿を拝見したのだろうか、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「ただ今、ここをお通りになっているようです。」と答えたとかいうことだ。晴明の家は、土御門大路と町口小路の交わる辺りなので、（ちょうど天皇の）お通り道であったのだ。

（天皇が）花山寺にお着きになり、ご剃髪なさって（出家なされた）後に、粟田殿が、「（私はちょっと）退出して、（父の）大臣にも、（出家する前の）変わらない姿を、もう一度見せ、これこれと事情をお話し申し上げて、必ず参上いたします。」と申し上げなさったので、（天皇は）「私をだましたのだな。」とおっしゃって泣きなさった。しみじみとおいたわしく悲しい事であるよ。（粟田殿は）平素、「（もし天皇が出家なさいましたら、私も）お弟子としてお仕えいたしましょう。」と約束しておいて、だまし申し上げなさっていたというのが恐ろしい事よ。（粟田殿の父である）東三条殿〔＝兼家〕は、「ひょっとして（我が子が）出家なさるのではないか。」と気がかりなために、このような場合にふさわしい思慮分別がある人々で、誰それと言う立派な源氏の武者たちを、お見送りに付けられた。（武者たちは）京の町にいる間は隠れて、鴨川の堤のあたりから姿を現してお供した。寺に着いてからは、「もしや、無理に誰かが（道兼を）出家させ申し上げるのではないか。」と思って、一尺ばかりの刀を抜きかけてお守り申し上げた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講　解答解説

〔解説〕

①「障り」は重要単語で「さはり」と読む。よって、正解はイ。ちなみに、「差し障り」「障害」などの意味である。

②「案内」は重要単語で、「物事の事情」「取次ぎを頼むこと」などの意味。よって、正解はイ。

③「さま（を）かふ」は「出家をする」ということ。よって、正解はイ。その他にも「出家する」という意味になる語がたくさんあるが、テキストにあげたものは覚えること。

④「おとなし」は重要単語。漢字で「大人し」と書く。「大人びている」「思慮分別がある」という意味。選択肢の中からだと「年配」のアが正解。現代の「おとなしい＝無口、穏やかな性格」という意味とは違うので気を付けること。漢字で覚えておくと便利。

〔解答〕

①　イ　②　イ　③　イ　④　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。